（別紙３）

公表　事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス　Sunny side up			
○保護者評価実施期間	R.7年　1月　18日	～	R.7年　1月　31日	
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	17	（回答者数）	16
○従業者評価実施期間	R.7年　1月　18日	～	R.7年　1月　31日	
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	9	（回答者数）	9
○事業者向け自己評価表作成日	R.7年　2月　7日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保護者への情報提供、連携	HUGというソフトを活用し、日々の記録は当日に保護者がスマホやパソコンで確認できるように公開している。また、行事の様子も記録して適宜公開している。送迎の場面でもできるだけその日の様子や学校との情報交換について伝えるようにしている。	HUGにて記録を公開しているが、活用してもらっている保護者は半数に満たないため、より活用してもらえるように保護者へ働き掛けていきたい。
2	医療系スタッフ（看護師2名、理学療法士２名）が、常に複数名ずつ勤務している。	医療ケアが必要な児童への支援を安全に行えている。また利用児のけがや体調不良などへの対応も適切に行っている。環境整備についても、医療の知識に基づいて消毒作業や室温・湿度のコントロール、清掃を徹底していて、毎月の会議でも、看護師からの指導を全スタッフが受けている。	感染対策の面から医療機関との連携が難しく、診察やリハビリの場面への同行や見学などができていないが、可能となれば積極的に取り組んでいきたいと考えている。
3	同法人内に相談支援や訪問介護の事業所があり、連携をとっている	利用児のライフステージや生活環境によって、必要な支援についての情報を得たり、訪問介護部門の支援を併用する利用児の情報交換を行っている。業務改善委員会では共同して委員会を設置して業務改善の検討をしている。	定期的に共同でカンファレンスを開催し、放課後等デイサービスだけではなく、全スタッフが生活全般で利用児をとらえる視点、広く考える力をつけていきたい。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	立地が大きな道路に面している、屋外活動するスペースがわずかしかない	別府市の中心に近く交通には便利な場所ではあるが、屋外での活動は常に地域の公園などに出かける必要があり、近隣の散歩では常に車への危険が伴う。学休日は公園などに出かけるが、下校後はほとんどが室内での活動になっている。	立地条件、屋外スペースの少なさは改善が難しいが、屋外で季節を感じ、色々な刺激を得ることは大切な経験であるため、下校後のわずかな時間でも屋外での活動ができるように活動内容を工夫していきたい。
2	解放できる窓がない	もともとコンビニとして建てられた建物で、玄関と裏口のドアを開放する以外は解放できる窓がないため利用児によっては圧迫感を感じることがある。外を見るためには玄関や裏口のドアを開ける必要があり、その時には職員が見守っている。また換気に工夫を要している。	建物の構造は変更できないため、換気は裏口の開放とそれに伴う冷気や熱気の遮断の工夫をしていく。外を観たい利用児については、ロールカーテンを開放して外の確認ができるようにしたり、職員が付き添って外に出る時間を作るなどの工夫をしていきたい。
3	放課後児童クラブなど地域交流が出来ていない	近くの公園に出かけたりはあるが、事業所のみで完結していて交流は出来ていない。	地域のイベントに参加するなど、連携方法を模索して交流を図っていくきっかけを作っていきたい。また、子どもに限らず、老人クラブなども考慮して交流を図っていきたい。